



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2018/07/03
SDS整理番号 04602390

製品等のコード : 0460-2390、0460-2370

製品等の名称 : N,N-ジメチルドデシルアミン

推奨用途 : 試薬

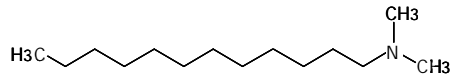
参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
カチオン界面活性剤・両性界面活性剤・樹脂処理剤・消毒剤原料・
アミンオキシサイド・第四級アンモニウム塩原料、顔料フラッシング剤など



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	: 区分外
自然発火性液体	: 区分外
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	: 区分4
急性毒性(経皮)	: 区分5 【国連GHS分類】
皮膚腐食性・刺激性	: 区分1A
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: 区分1
生殖毒性	: 区分2
環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	: 区分1
水生環境慢性有害性	: 区分1



注意喚起語：危険

危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)
皮膚に接触すると有害のおそれ(経皮)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
ミスト、蒸気、粉じん、煙、ガス、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【救急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を大量の水と石鹸で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で30分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
漏出物を回収すること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施設して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	N,N-ジメチルドデシルアミン (別名) N,N-ジメチルドデカン-1-イルアミン、 ジメチルドデシルアミン、 ドデシルジメチルアミン、 N,N-ジメチルドデカン-1-アミン、 N-ドデシルジメチルアミン、 N,N-ジメチルラウリルアミン、 N,N-ジメチル-1-ドデカンアミン、 ジメチルラウリルアミン (英名) N,N-Dimethyldodecylamine、 N,N-Dimethyldodecan-1-ylamine、 Dodecyldimethylamine (EC名称)、 1-Dodecanamine, N,N-dimethyl- (TSCA名称)、 Dimethyldodecylamine、 N,N-Dimethyldodecane-1-amine、 N-Dodecyldimethylamine、 N,N-Dimethyl laurylamine、 N,N-Dimethyl-1-dodecanamine、 Dimethyl laurylamine
成分及び含有量	:	N,N-ジメチルドデシルアミン、 97.0%以上
化学式及び構造式	:	C ₁₄ H ₃₁ N、 CH ₃ (CH ₂) ₁₁ N(CH ₃) ₂ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	213.40
官報公示整理番号	:	(2)-176
化審法	:	2-(10)-54
安衛法	:	112-18-5
CAS No.	:	203-943-8
EC No.	:	
危険有害物質	:	N,N-ジメチルドデシルアミン ・ 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 1-223 (97%) ・ 消防法 危険物第4類引火性液体 第三石油類 非水溶性

4. 応急処置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受けること。
皮膚に付着した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を速やかに多量の水と石鹸で洗う。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。 皮膚刺激が生じた時は医師の手当てを受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、水で30分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で上げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していなければ除去し、洗浄を続ける。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、眼障害のおそれがある。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	:	直ちに医師に連絡する。 口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。 吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。

直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管
への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流
を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速や
かに医師の診察を受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

5. 火災時の処置

- 消火剤 : 本製品は可燃性である。
粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため）
- 特有の危険有害性 : 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、
空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
風上から作業し、ミスト、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
- 回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる
空容器に回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
ミスト、蒸気、ガス、粉じんの発生を防止する。
- 局所排気・全体換気
安全取扱い注意事項 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
裸火禁止。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策 : 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。
保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件 : 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。
乾燥した場所に保管する。
容器を密閉して冷暗所に保管する。
遮光した容器に入れ保管する。
必要に応じ施錠して保管する。
貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強酸
- 容器包装材料 : ガラス、ふっ素樹脂など

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 未設定
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標） :
日本産衛学会（2017年版） 未設定

ACGIH (2017年版)	未設定
設備対策	: 取扱い場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(ネオプレン製など)を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 無色～微黄色の液体
臭い	: アミン臭
pH	: アルカリ性
融点	: -20
沸点	: 149 (2kPa)
引火点	: 118
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 2.1 Pa(25)
蒸気密度(空気 = 1)	: 7.4
密度	: 0.79
溶解度	: 水にほとんど溶けない。 エタノール、エーテルに溶ける。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 5.4
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし

GHS分類

引火性液体	: 引火点118 は93 超であることから、区分外とした。
自然発火性液体	: 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

安定性	: 光のばく露により除々に着色する。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤又は強酸との混触で反応することがある。 加熱すると分解してNOxの有毒ガスを発する。
避けるべき条件	: 日光、熱、湿気
混触危険物質	: 強酸化剤、強酸
危険有害な分解生成物	: 加熱すると分解し、有毒な窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素のガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 マウス LD50 = 1,450 mg/kg (SIDS(2001)) (OECD TG 401、GLP) に基づき、区分4とした。 飲み込むと有害(経口)(区分4) 経皮 ウサギ LD50 = 約5,000 mg/kg (USCh (2002)) と記述されていることから、区分5とした(国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分外である。 皮膚に接触すると有害のおそれ(経皮)(区分5) 吸入(蒸気) データがないため分類できない。 吸入(ミスト) データがないため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	: ウサギを用いた皮膚刺激性/腐食性試験(OECD TG 404、GLP)で腐食性を示す(SIDS(2001))との記述から、区分1Aとした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1A)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: ウサギにおいて「moderately irritating」(SIDS(2001))、ウサギの標準Draize 試験で「severe」な刺激性(RTECS(1997))、ヒトで「severe eye irritant」(HSDB(2003))との記述があり、いずれも定性的な評価である。皮膚腐食性物質であることから、区分1とした。 重篤な眼の損傷(区分1)
呼吸器感受性	: データがないので分類できない。
皮膚感受性	: データがないので分類できない。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。 体細胞in vivo 変異原性試験として、本物質を70%含むジメチルアルキルアミン(他、C12-14-を25 %及びC16-ジメチルアルキルアミンを5 %)を用いたマウス小核試験(OECD TG474、GLP)において陰性(SIDS(2001))との記述があった。

また、本物質を用いたin vitro変異原性試験（細菌を用いたAmes試験（OECD TG471・TG472、GLP））でも陰性と記述されている。

発がん性 : 知見データがなく、IARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAAの評価機関の報告がないため、分類できないとした。

生殖毒性 : ラットを用いた経口投与での生殖/発生毒性スクリーニング試験（OECD TG421、GLP）において、母動物への影響がみられる用量で、出産時生存児数の減少、死産の増加、平均着床後胚損失の増加、平均生存指数の減少がみられる（SIDS(2001)）との記述から、区分2とした。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：データがないので分類できない。

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：ラットを用いた28日間経口投与試験（OECD TG407、GLP）において、軽微な影響（床材に鼻を擦りつける）がみられる（SIDS(2001)）と記述されている。この影響は区分2のガイダンス値の範囲内で見られているが、重大な影響とは考えられないので採用しない。他にデータがないため分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性：情報がないため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性：藻類（セネデスムス）の72時間EC50 = 0.034mg/L（SIDS, 2005）から、区分1とした。
水生生物に非常に強い毒性（区分1）

水生環境慢性有害性：急性毒性が区分1であり、急速分解性がある（BODによる分解度：74%、（既存点検, 1977）が、生物蓄積性があると推測される（LogKow = 5.44、PHYSPROP Database, 2008）ことから、区分1とした。
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性（区分1）

オゾン層への有害性：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）(1) 燃焼法
可燃性溶剤に混合し、又は木粉等に混ぜて、少量づつ、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却する。
(2) 活性汚泥法
生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。

汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 153

国際規制

海上規制情報（IMO/IMDGコードの規定に従う）

UN No. : 2735
Proper Shipping Name : AMINES, LIQUID, CORROSIVE, N.O.S. or POLYAMINES, LIQUID, CORROSIVE, N.O.S. (Dodecyldimethylamine)
Class : 8 (腐食性物質)
Sub risk : -
Packing Group : III
Marine Pollutant : Yes (該当)
Limited Quantity : 5L

航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRに従う）

UN No. : 2735
Proper Shipping Name : Amines, liquid, corrosive, n.o.s.(Dodecyldimethylamine)
Class : 8
Sub risk : -
Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報（消防法、道路法の規定に従う）

海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）

国連番号 : 2735

品名 : アミン類又はポリアミン類(液体)(腐食性のもの)
(他に品名が明示されているものを除く。)

クラス : 8
副次危険 : -
容器等級 : III
海洋汚染物質 : 該当
少量危険物許容量 : 5L

航空規制情報(航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に
従う)

国連番号 : 2735
品名 : アミン類(液体)(腐食性のもの)(他に品名が明示されて
いるものを除く。)

クラス : 8
副次危険 : -
等級 : III
少量輸送許容量 : 1L

特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を
収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように
積載すること。
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こ
さないように運搬すること。
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれ
がある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると
共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れの
ないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
必要に依り移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当
化審法 : 優先評価化学物質 No.165 (官報公示日: 2014/04/01)
「N,N - ジメチルドデシルアミン」
優先評価化学物質の評価対象; 生態影響

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) :
・種別 「第1種指定化学物質」
・政令番号 「1-223」
・政令名称 「N,N - ジメチルドデシルアミン」

毒物及び劇物取締法 : 非該当
消防法 : 危険物第4類引火性液体、第三石油類、非水溶性液体、
指定数量2000L、危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)

船舶安全法 : 腐食性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法 : 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法 : 有害液体物質 X類同等物質(施行令別表第1)
水質汚濁防止法 : 生活環境項目(施行令第三条第一項)
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
〔排水基準〕160mg/L 以下(日間平均 120mg/L 以下)
「窒素の含有量」
〔排水基準〕120mg/L 以下(日間平均 60mg/L 以下)
(注)排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合は
それに従うこと。

輸出貿易管理令 : キャッチオール規制(別表第1の16項)
HSコード(輸出統計品目番号、2018年4月1日版): 2921.19-000
第29類 有機化学品
「アミン官能化合物 - 非環式モノアミン及びその誘導体
- その他のもの」

16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2012に準じ作成しています。